

令和6年度第2回八戸市観光振興審議会

日 時：令和6年11月6日（水） 14時00分

場 所：八戸市議会第一委員会室

（八戸市庁本館3階）

次 第

1. 開 会
2. 前回審議会の意見の確認
3. 目指すべき姿のイメージ案について
4. 基本方針と数値目標について
5. データに関する意見の確認
6. その他
各委員からの意見
7. 閉 会

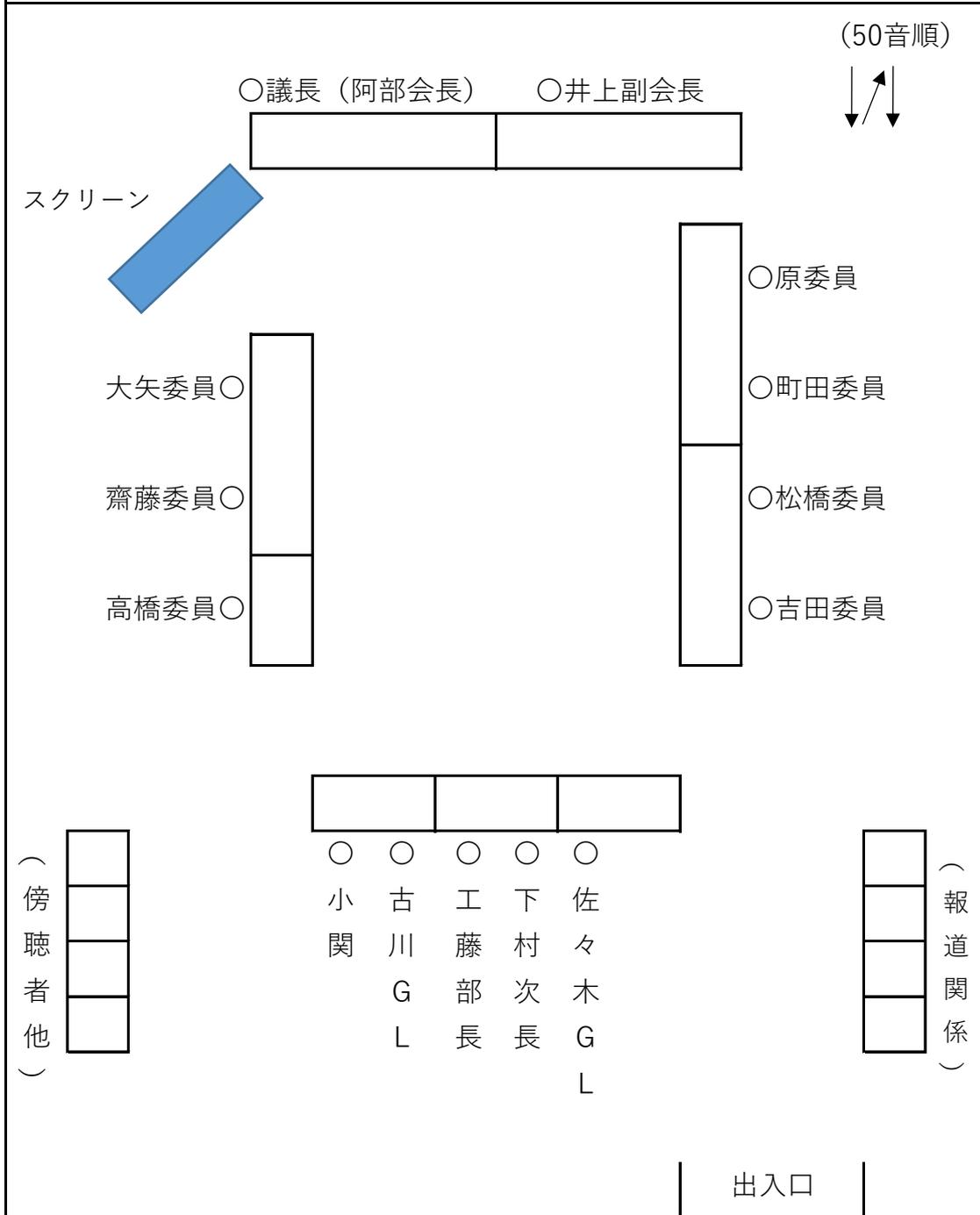
和6年度第2回八戸市観光振興審議会 出欠状況

対面出席：9名 オンライン出席：3名

	職	氏名	備考	出欠
1	会長	あべ としかず 阿部 寿一	一般財団法人 VISIT はちのへ 専務理事兼事務局長	出席
2	副会長	いのうえ あかし 井上 丹	八戸学院大学地域経営学部 地域経営学科 准教授	出席
3	委員	おおや ゆういちろう 大矢 雄一郎	公募	出席
4	委員	かとう ひでたか 河東 英宜	株式会社かまいしDMC 代表取締役	オンライン 出席
5	委員	さいとう なおき 齋藤 直樹	青森県観光交流推進部 部長	出席
6	委員	たかはし けいいち 高橋 啓一	株式会社博報堂 PR局 PR プラニング1 部長	出席
7	委員	はら のりこ 原 智子	八戸商工会議所中小企業相談所 経営支援2課 課長	出席
8	委員	まちだ なおこ 町田 直子	株式会社ACプロモート 代表取締役	出席
9	委員	まつはし みつゆき 松橋 満幸	八戸ホテル協議会 会長	出席
10	委員	むらやま けいすけ 村山 慶輔	株式会社やまところ 代表取締役	オンライン 出席
11	委員	よしだ まさき 吉田 正樹	東日本旅客鉄道(株)盛岡支社 八戸統括センター所長	出席
12	委員	わたなべ あつし 渡辺 厚	一般社団法人東北観光推進機構 推進本部長	オンライン 出席

第2回八戸市観光振興審議会

～ 席図 ～



2. 前回興審議会の意見の確認

- ①情報量というのが圧倒的に少ないと感じている。今後議論の中でこういった数字に関しての在り方というのも話していきたい。
- ②インバウンドに関してはこういった文脈で来ていただきたいかというところをしっかりと偶像として示して、そのうえで正しい価値を正しい価格で販売していくことが重要。
- ③観光庁の来年度予算の概算要求では「持続可能な観光」についての予算が対前年で2.4倍くらいになっており、観光振興プランの中に持続可能な観光が必要だと思っている。
- ④お客さんが八戸に来ることによって地域消費額が上がる、あるいは関係している事業者には利益がおよぶような取組を強化していきたい。
- ⑤潮風トレイルの八戸は起点でありゴールでもあることから、非常に大切なポイントだと思うのでぜひ力を入れて頂きたい。
- ⑥ターゲットの中でレールパスを買う外国人みたいなところがひとつターゲットになるかもしれない。そのようなデータも調査していただくと次に繋がるのかなと思う。
- ⑦持続可能性の中でも文字通りのサステナブルツーリズムに注目している。
- ⑧欧米を中心とした方々が、生態系とかCO2を出さないというところでサステナビリティに配慮している商品、サービスを買うという傾向、日本においてもZ世代は意識としてはそちらのほうが高いということがあるので、そういった方向でまだ誰もやっていないことを八戸でやれるというようなところをできたら素晴らしいと思う。
- ⑨時代はデジタルになっており、旅行者自身が高度なパソコンを手元にいつも持って、それが繋がっていく時代になっているので、そこを利用して事業者さんを含めたデジタル系のサステナブルツーリズムみたいなものもあるはずですので、その辺の仕掛けも八戸ならではのことをやっていきたい。
- ⑩交流人口のところで、市民の方と観光客の方が繋がると市民の方の幸福度が上がるというところが一番大切だと思いますので、それを観光という機会であれば実施できればと思っている。
- ⑪プランを作るということにおいて、八戸ならではのとか、八戸の観光に対する意気込みみたいな、どんな観光を目指しているのか、それがある程度伝わるようなものにしていくべきではないかと思っている。
- ⑫消費額について、宿泊費、飲食費、体験料などについて整理してプランを考えるのが必要だと思う。
- ⑬テレビ等を活かした観光というのも力を入れてもいいのかなと思う。
- ⑭VISIT はちのへと観光課の役割として戦略をここでしっかり作って一個の部分をお願いするのか、VISIT はちのへで戦略まで考えてもらうのか今後整理が必要。
- ⑮観光は手段であって目的ではないので、観光を通じてその地域をどうしていくのか、そこが鍵だと思っている。
- ⑯外国人観光客における八戸市の認知度とか、何を求めてきているのか、何を見て知ったのかを含めて、その辺のデータがないと思う。ない中で計画を作っていくのか、クイックにできることをやりながらそれを少しインプットしながら計画を作っていくと思うが、今の側面というとな必要な情報がかなり足りないと思うので、そこをどうするのか今後詰めていけるといいかなと思う。

- ⑰目的地となる宿や、海外の方が好むツインタイプの部屋などハードの部分は時間がかかると思うので、今回の計画を踏まえて中長期的にハード整備を進めていく必要もあるのかなと感じている。
- ⑱インバウンドに関して事業者の方々をいかにやる気を持ってもらうというか、やる気のある方をいかに支援して活躍いただくか、その辺のプレイヤーの部分の可視化、活性化も大きな鍵だと実感している。
- ⑲観光で売るなら事業者だけでなく、市民のみなさんが観光で食べている、観光って儲かるいいことなんだという意識を作ってあげないといけないと思っている。
- ⑳「横丁の文化と朝市の文化」、は宿泊につながると思う。例えばそれに絞って今年はやるとか、たくさん魅力がある中で、絞りながらプランを作っていくのもひとつかなと思っている。
- ㉑市民の方がお互い観光客と繋がって存在を認めあうというような、市民参加型の観光を東北の中で作っていくべきだと思うし、八戸市では市民の今までの生活文化が観光コンテンツになりうると思いますので、その辺をぜひ切り口として一緒に作り上げていきたい。
- ㉒やはり、これからインバウンドに向けて、旅行者には県境も市の境界もないので、エリアとして旅行者目線としていろいろな良いものを発信していくのだらうと思いますので、みちのく潮風トレイルなども含めた広域の連携というところも、進めていければと思う。
- ㉓市民の参加、共感が一番必要だと思いますので、観光消費額であったり、その中でも域内調達率、どれだけ市の経済に観光というものが寄与していくのかというのを可視化する、見える化するのが必要。
- ㉔観光として八戸市圏域はどういうところを目指していくのかというところを考えていかないと、色々な方向性がある中で、それをすべて実現させるのか、それとも取捨選択して強いものを伸ばすのか、そういったところも含めて議論していく必要があると思う。
- ㉕観光として八戸は何なのかというところが、地元のほうでもまだはっきりしていない。八戸はせんべい汁になると思うのですが、観光コンテンツになっているのかというと、わざわざそれを目的に外からお客さんが来るのかというと、まだそこには付加価値をつけていかなければならないかと思う。
- ㉖八戸の魅力は人だと考えている。魅力になっていくような人を今後どう育成していくのか、人材育成の仕組みというのでも考えていかなければいけないと思う。

3. 目指すべき姿のイメージ案について

○目指すべき姿・基本的な方針のキーワード（第1回審議会の委員の意見より）

- ・持続可能な観光
- ・事業者が儲かる（稼ぐ観光）事業者にいかにやる気をもってもらうか、
観光消費額、域内調達率
- ・市民の方の幸福度、市民の参加・共感、人とのかかわり（交流）

○上記キーワードから考えた八戸市の目指すべき姿のイメージ案

- ・環境に配慮した観光都市への発展
- ・多様な歴史と文化（食を含む）を活かした文化観光の推進
- ・観光を市民の生活の幸福につなげる

これらの言葉を
引用しながら作成

○他都市の事例

（1）青森県

本県が世界とつながり、世界から選ばれ、観光産業が基幹産業として地域経済を力強くけん引している状態

「訪れる人」「働く人」「地域の人」が幸せを感じる地域

（2）函館市

観光の価値を高め、函館を照らす ～もう1回、もう1泊、もう〇〇～

（3）十和田市

自然とアートを核に稼いで潤う持続的な観光地域づくり

（4）盛岡市

世界から盛岡ファンを引き寄せる東北の観光交流都市

（5）川越市

世界に発信しよう！EDOが粹づくまち 小江戸川越

※青森市と弘前市は基本計画なし

4. 基本方針と数値目標案

○目指すべき姿・基本的な方針のキーワード（第1回審議会の委員の意見より）

- ・持続可能な観光
- ・事業者が儲かる（稼ぐ観光） 事業者にいかにやる気をもってもらうか、
観光消費額、域内調達率
- ・市民の方の幸福度、市民の参加・共感、人とのかかわり（交流）

○上記キーワードから考えた基本方針と数値目標案

① 持続可能な観光を確立し、環境保護、地域経済の発展、地域文化の保全を進める

※参考資料 2

（文化観光の推進）

【数値目標案】

- ・日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に沿って取り組みを進め、「持続可能な観光地 100 選」の選出を目指す。

② 地域の事業者が稼ぐ観光を目指し、観光消費額を拡大する。

【数値目標案】

- ・〇〇〇億円、→〇〇%増 ※観光消費額の出し方について確認が必要

③ 観光振興による市民の幸福度を高める

【数値目標案】 ⇒どのような数値がよいか意見を伺いたい

案①：観光収益の地元還元率 案②：住民の生活環境・質の向上、

案③：住民の観光満足度調査

【参考指標案】

- | | |
|------------|-------------|
| （1）宿泊者数 | （2）日帰り客消費単価 |
| （3）宿泊客消費単価 | （4）連泊率 |

○他都市の基本方針・数値目標

(1) 青森県 (期間 2024~2028)

【ビジョン】 ①持続可能な観光の確立 ②観光消費額の拡大 ③連泊の推進	【数値目標】 ①観光消費額 ②延べ宿泊者数 ③外国人延べ宿泊者数 【参考指標】 ①平日宿泊率、②日帰り客消費単価 ③宿泊客消費単価、④連泊率
---	--

(2) 函館市 (期間 2024~2028)

【ビジョン】 ①観光消費額の向上 ②観光の繁閑差の是正 ③観光を盛り上げる人を増やす ④観光への市民理解度を促進	【数値目標】 ①平均宿泊数 ②繁閑差の是正の指標として平準化指数 ③函館観光に関する取組に参加する市民の増加 ④観光の理解度の向上
---	--

(3) 十和田市 (期間 2022~2024)

【ビジョン】 ①観光による潤いの平準化 ②サステナブルな観光地域づくり ③上質な観光サービス	【数値目標】 ①旅行消費額 ②延べ宿泊者数 ③来訪者満足度 ④リピーター率
--	--

(4) 盛岡市 (期間 2020~2024)

【ビジョン】 ①「歩いて楽しむまち盛岡」の魅力向上 ②デジタルプロモーションなどの情報発信による認知度向上 ③メガスポートイベントや東北DCを活用した誘客の推進	【数値目標】 ①年間観光客入込数 ②年間宿泊観光客数 ③年間外国人宿泊観光客数
--	---

(5) 川崎市 (期間 2021~2025)

【ビジョン】 ①新たな観光をつくりだす ②外国人も楽しめる川越 ③安心して観光を楽しめる環境をつくる ④地域全体で観光まちづくりを進める	【数値目標】 ①年間観光客入込数 ②観光客リピーターの割合 ③外国人観光客の割合 ④観光時間半日以上観光客の割合 ⑤宿泊観光客割合 ⑥観光地立ち寄り箇所 ⑦平均観光消費額 ⑧市民の観光に対する重要度
---	--

5. 第1回観光振興審議会が出たデータに関する意見について

(大矢委員)

- ・情報量というのが圧倒的に少ないと感じている。今いろいろとお示し頂いているデータがあるが、データの量、質、当然ながら分析のアプローチ、多角的であるべきだと思いますし、今後議論の中でこういった数字に関しての在り方というのも話していきたいと思っている。

(河東委員)

- ・ターゲットの中でレールパスを買う外国人みたいなのがひとつターゲットになるかもしれない。そういった人たちが今レールパス使っているのか使っていないのか、そんなところも調査していただけると次に繋がるのかなと思う。

(高橋委員)

- ・交流人口のところで、市民の方と観光客の方が繋がると市民の方の幸福度が上がるというところが一番大切だと思いますので、それを観光という機会で実施できることができるかなあと考えています。どんなデータなのかというのは、データの取り方なんかも工夫して、議論していきたいと思う。

(町田委員)

- ・消費額について、宿泊費、飲食費と違ってという日帰りだと1000円くらいで2000円もいかない、体験料っていったら1000円もいかない。うちの漁師のもてなしランチだと4000円程度、体験料だと1万円以上するし、一度そこを整理してプランを考えるのが必要かなと思う。

(村山委員)

- ・外国人観光客における八戸市の認知度とか、何を求めてきているのか、何を見て知ったのかを含めて、その辺のデータがないと思う。ない中で計画を作っていくのか、クイックにできることをやりながらそれを少しインプットしながら計画を作っていくのか今後詰めていけるといいかなと思う。

(渡辺委員)

- ・市民の参加、共感が一番必要だと思いますので、観光消費額であったり、その中でも域内調達率、どれだけ市の経済に観光というものが寄与していくのかというのを可視化するのが必要。我々観光に携わっているもの以外の皆さんも広く観光について理解を深める、市民全体で八戸の観光を盛り上げていくというようなビジョン、そのためにその制度を可視化して市民に伝えていくというのが一番必要。

(井上副会長)

- ・観光として八戸市圏域はどういうところを目指していくのかというところを今一度考えていかないと色々な方向性がある中で、それをすべて実現させるのか、それとも取捨選択して強いものを伸ばすのか、冬季の閑散期という話もありましたが、そこに本当にエネルギーを使うべきなのかどうか、そういったところも含めて議論していく必要があると思いましたが、議論するためにはデータがまだまだ足りないと思いましたので、そのあたりを会議で詰めていくのがいいと思う。

第1回観光振興審議会 発言要旨

(大矢委員)

- ・八戸の観光、地域経済循環というところを継続的に生み出していく、そのためにはインバウンドによる外貨の獲得、産学官連携の観光人財の育成が非常に重要であると常々思っていた。
- ・情報量というのが圧倒的に少ないと感じている。今いろいろとお示し頂いているデータがあるが、データの量、質、当然ながら分析のアプローチ、多角的であるべきだと思いますし、今後議論の中でこういった数字に関しての在り方というのも話していきたいと思っている。
- ・指針として、どういった方に来ていただきたいか、特にインバウンドに関してはどういった文脈で来ていただきたいかというところをしっかりと偶像として示して、そのうえで正しい価値を正しい価格で販売していく。そういった観光の体制づくりというのが非常に重要ではないかと考えている。

(河東委員)

- ・昨日観光庁から来年度予算の概算要求が出ておりますが、一番上にあるのが持続可能な観光。対前年予算で2.4倍くらいになっており、その文言が観光振興プランの中にひとつ欲しいと思っている。
- ・今後ビジョンを作っていく中で持続可能な観光。それは何かというと、お客さんが八戸に来ることによって地域消費額が上がる、あるいは関係している事業者が利益がおよぶ、そこをもう少し強化していく取り組みをぜひやっていただきたい。
- ・潮風トレイルを歩いていると八戸は起点でありゴールでもあることから、非常に大切なポイントですのでぜひ力を入れて頂きたいと思う。
- ・ターゲットの中でレールパスを買う外国人みたいなところがひとつターゲットになるかもしれない。そういった人たちが今レールパス使っているのか使っていないのか、そんなところも調査していただけると次に繋がるのかなと思う。

(高橋委員)

- ・持続可能性の中でも文字通りのサステナブルツーリズムに個人的に注目している。
- ・インバウンドの方にもかかわっているのですが、特に日本の観光自体は富裕層に来ていただきたい、単価を高いものを落としていきたいというふう間違いなくいっていると思うのですが、欧米を中心とした方々が、生態系とかCO2を出さないというところでサステナビリティに配慮している商品、サービスを買うという傾向、日本においてもZ世代は意識としてはそちらのほうが高いということがありますので、そういった方向で何かチャレンジングなものをやっていって、まだ誰もやっていないことを八戸でやれるというようなところをできたら素晴らしいと思う。
- ・知らせていくという意味でもパンフレットとか重要なんですが、時代はデジタルになっている。特に旅行者自身が高度なパソコンを手元にいつも持って、それが繋がっていく時代になっているので、そこを利用した事業者さんを含めたデジタル系のサステナブルツーリズムみたいなものもあるはずですので、その辺の仕掛けも八戸ならではのことをやっていけるといいと思っている。

- ・交流人口のところで、市民の方と観光客の方が繋がると市民の方の幸福度が上がるというところが一番大切だと思いますので、それを観光という機会で行うことができるかなあと考えています。
- ・どんなデータなのかというのは、データの取り方なんかも工夫して、議論していきたいと思う。

(原委員)

- ・まずは商工会議所ですので地域の事業者さん、観光客が増えても受け入れをする事業者がうまく活かしていただきたいということを視点におきまして、まずインバウンドのお客が増えたらどういうことをしたほうがいいのか、そういったことでも去年は村山さんにも講師になっていただきまして、セミナーなども行ったりしている。
- ・食ということで、今年来月 9 月からはグルメツアーというものを復活させてやっていったりとか、産業観光ということでも産業地である八戸の数ある工業、工場ですとか、企業さんを訪問させていただく機会がないかとかそういった調査も行っている。
- ・昨年からは盛岡もインバウンドで増えていたということもありますので、そちらの方々と交流会をしたりということも行っている。

(町田委員)

- ・このプランを作るということにおいて、八戸ならではのとか、八戸の観光に対する意気込みみたいな、どんな観光を目指しているのか、それがある程度伝わるようなものにしていくべきではないかと思っている。
- ・AC プロモートとか NPO 法人 ACTY は何十年観光地域づくりを進めながら観光コンテンツを一個一個作りながらそれを商品にして、稼ぐ観光を何十年商品づくりをしてきておりますので、そういった目線で、八戸の観光で何を表現していきたいのか。定住・移住を目指すために観光を行うのか、産業・ビジネスとして八戸にしかない魅力を発信していく観光をやるのか、地域が幸せになるために観光地域づくりをみんなで頑張っていくんだというものなのか。考えていけないといけない。
- ・消費額について、宿泊費、飲食費とかって言うと日帰りだと 1000 円くらいで 2000 円もいかない、体験料っていったら 1000 円もいかない。うちの漁師のもてなしランチだと 4000 円程度、体験料だと 1 万円以上するし、一度そこを整理してプランを考えるのが必要かなと思う。

(松橋委員)

- ・市内の現状を報告しますと、去年よりも宿泊部門は全般では 97 とか位です。去年よりは上回っていません。近々の 8 月だけは去年をどこも上回っていて 100.8 とか。
- ・去年は実はコロナ明けだったのですが、国の助成金があったので、宿泊は実は去年のほうが今の現段階だとトータルだといいです。そういう意味だと厳しいという状況。
- ・市内では新しいホテルが 120 室くらいで建つということで、観光というのをきちんととらえておかないと、客室は増えるけれども需要はどうなのかというところで、ホテル全体では感じている部分ではあるので、漠然としたという感じではなくて、ある程度効果があるような対策・目標が必要だと思っている。

- ・肌感覚で感じたことをもうひとつ言わせてもらおうと、ケンミンショーというテレビ番組がありますが、先月か先々月に八戸の朝市の特集がありましたらその週の後半はグッと宿泊客が増えたという案件がありました。メディアはやはり強い、特に地上波。テレビ等を活かした観光というのも少し力を入れてもいいのかなと思いました。

(村山委員)

- ・VISIT はちのへと観光課の役割として戦略をここでしっかり作って一個の部分をお願いするのか、VISIT はちのへで戦略まで考えてもらうのか、そのあたりの分担の部分も今後整理していくことになると思うが、まずは計画として市でしっかりと観光全般、インバウンドも含めてということで描いていくことなのかなと思っている。
- ・だいたい前の計画があってそれを踏襲する人が多いのですが、八戸は0から1にする計画であるため、チャレンジングというか、4回でまとまるのかと感じています。
- ・調査とか追加のデータとか、色々な整理事項が発生すると思うので、その辺を含めてもう少し精査していく必要があると感じている。
- ・戦略を作るといえるのはとても重要だと思いますし、観光は手段であって目的ではないので、観光を通じてその地域をどうしていくのか、そこが鍵だと思っている。
- ・インバウンドの話でいうと、今回データがあまりない。アンケートをホテルさんに協力いただいてとってはいるものの、母数が少なかったり、観光案内所でも協力いただいているものの母数が足りなく、ホテル的に外国人観光客の認知度、今回日本人の認知度はあったんですが、外国人観光客における八戸市の認知度とか、何を求めてきているのか、何を見て知ったのかを含めて、その辺のデータがないと思う。ない中で計画を作っていくのか、クイックにできることをやりながらそれを少しインプットしながら計画を作っていくのかなあと思うのですが、今の側面でいうと必要な情報がかなり足りないと思うので、そこをどうするのか今後詰めていけるといいかなと思う。
- ・いずれにせよデータの部分、計画作りの話、あとは八戸市を何で売っていくのかというのはカギだと思う。客観的に見ても食と自然は売りだと思います。
- ・宿でいうと台湾の方が来ると青森屋に泊まって奥入瀬溪流ホテルで泊まって八戸では泊まらないというツアーもある。目的地となる宿であったり、あるいは海外の方、特にアジア系が好むのはツインのタイプの部屋がもうちょっと多いとかルームが少し広いとか、ハードの部分は時間がかかると思うので、今回の計画を踏まえて中長期の中でどれくらいハードを整備していくのかというところを、計画に沿ってハードの整備を進めていく必要もあるのかなと感じています。
- ・町田さんはじめ地域の事業者の方もいらっしゃるのですが、インバウンドに関していうとあまり積極的な方が少ないなど、他の地域と比較するとあります。インバウンドのメリットとか数の増加を実感していないから、モチベーションがあがらないというのがあると思います。事業者の方々をいかにやる気を持ってもらうというか、やる気のある方をいかに支援して活躍いただくか、その辺のプレイヤーの部分の可視化、活性化も大きなカギだと実感している。

(吉田委員)

- ・私としては観光で売るなら事業者もですが、市民のみなさんの意識が観光で食ってるんだ、観光って儲かるいいことなんだという意識を作ってあげないとしょうがないと思っている。
- ・八戸駅は新幹線のゲートウェイということで八戸線もありますし、タクシーもバスもありますが、中心市街地の活性化としては、本八戸駅から歩いて来られるという利便性、10分足らずで来られるということで、もっとここを売っていきたい。
- ・シームレスでMaasの推進ももっとやれればと思っておりますので、そこは課題だと思っている。
- ・宿泊に関しては、今度、種差にもコテージができたり、シーガルビューさんにもありますが、メディカルも入れたような宿泊も必要かなと思う。療養とメディカル、そういった宿泊も今後必要になってくるのかな、あとはトレイルの幅も広がってくるのかなと思っておりました。
- ・やはり横丁の文化と朝市の文化、そこにあるのは宿泊だと思うんですね。泊まらないと行けないという。例えばそれに絞って今年はやるとか、そういった、あまりにもありすぎていっぱいあるんですけど、どれをやるのかというところなので、絞りながらプランを作っていくのもひとつかなと思っておりました。

(渡辺委員)

- ・昨今オーバーツーリズムという話がありますが、東北については、そういう状況ではありませんので、スローツーリズムであったりあるいはレスポンシブルツーリズム、市民の方がお互い観光客と繋がって存在を認めあうというような、市民参加型の観光を東北の中で作っていくべきだと思いますし、八戸市ではそういう市民の今までの生活文化が観光コンテンツになりうると思いますので、その辺をぜひ切り口として一緒に作り上げていければと思っている。
- ・直近のデータの中で、アメリカの方が18%というデータがありましたが、メディア戦略、発信の中ではアドバンテージなのかなと改めて思っている。いいものであれば、満足してもらえれば、必ずいろいろな発信をしていただける。これもひとつ八戸ならではの新しい情報発信の道かなと直感的に思ったところです。
- ・やはり、これからインバウンドに向けて、旅行者には県境も市の境界もありませんので、エリアとして旅行者目線としていろいろな良いものを発信していくのだろうと思いますので、みちのく潮風トレイルがあって、今後八戸十和田トレイルというところでさらに広域に伸ばしていくということであったり、弘前、函館、青森、それぞれと連携を深めて頂くと非常に効果がある話だと思いますので、広域の連携というところも、進めていければと思う。
- ・やはり道を作るには市民の参加、共感が一番必要だと思いますので、観光消費額であったり、その中でも域内調達率、どれだけ市の経済に観光というものが寄与していくのかというのを可視化する、見える化するのが必要。その中で雇用の面であったり、やっぱり八戸で生活していく、そのとき観光業界に勤めてそれで生業としていくという好循環とか、我々観光に携わっているもの以外の皆さんも広く観光について理解を深める、市民全体で八戸の観光を盛り上げていくというようなビジョン、そのためにその制度を可視化して市民に伝えていくというのが一番必要。
- ・その辺のテクニカルな部分、どういったことをすればできるのかというところで、他の地域の事例も

各委員の皆さん、私も調べてみたいと思いますが、市民の皆さんに共感ができるビジョンを作れば
いいかなと思う。

(井上副会長)

- ・観光として八戸市圏域はどういうところを目指していくのかというところを今一度考えていかないと、たぶん色々な方向性はあるんだろうと思いますので、それをすべて実現させるのか、それとも取捨選択して強いものを伸ばすのか、冬季の閑散期という話もありましたが、そこに本当にエネルギーを使うべきなのかどうか、そういったところも含めて議論していく必要があると思いましたし、議論するためにはデータがまだまだ足りないと思いましたので、そのあたりを会議で詰めていくのがいいと思う。
- ・観光として八戸は何なのかというところが、地元のほうでもまだはっきりしていない。青森市だとねぶた、弘前市は桜とりんご、自然といえば十和田奥入瀬、八戸はせんべい汁という話になると思うんです。せんべい汁は私も好きなので悪く言うわけではないですが、生活文化がひとつの観光資源になってきているというのがひとつのヒントなのかなと思います。まだまだそれが町田さんのおっしゃるとおり、観光コンテンツになっているのかというと、わざわざそれを目的に外からお客さんが来るのかというと、まだそこには付加価値をつけていかなければならないんじゃないかなあとと思います。
- ・それを事業者や市民が作っていかなければいけないのかというと、それだけではないのかとされていて、できれば観光客として来た人が、何回も来てファンになり、場合によっては移住、定住などで一緒に作っていく、そんな人材が出てきてもいいかと思えますし、大学なんか県外の学生が多いのでそういうのに関わってほしいという思いも持ちました。
- ・もちろん食、生活文化という魅力もありますが、そこに人とかかわりというのがあるんじゃないかと思えます。八戸の魅力に人というのが私はあるような気がしています。実際若者の街の魅力というのを調査していますが、実際八戸は、おじさんにとってはすごい魅力的な街なんだと思います。飲み屋が多くて夜が楽しい。出張で来るお客さんもたくさんいる。そこに若者とか女性がかかわっていけないので、そこが今課題であると別の委員会のほうで話をしているのですが、魅力になっていくような人を今後どう育成していくのか、どうかかわっていけるのかということも、八戸市やVISITはちのへのプランとして考えるかどうかは検討が必要ですが、人材育成の仕組みというのも考えていかなければいけないと思う。

(阿部委員)

- ・様々課題があるんですが私自身も思っていて委員の皆さんからも頂いた中では、調査の中身とか深堀とかは足りないと感じながら仕事をしてきたところでもあるので、リピーター率7割の話もでたんですが、分母のアンケート結果から出ているので分母が多いのかといわれるとあまり多くないのかなという実感もあるなかで、あるホテルの支配人から聞いた話ですが、肌感覚で観光とビジネスどれくらいの宿泊かと聞いたら、ビジネスが7割かなあと。まだまだ観光が少ない。そうすると、さっきのリピーター率7割というのは結局アンケート出してくれている人の中でビジネスでリピーターで7割というのが出ているのかと、ある意味整合性がある数字かと感じていました。そういった意味でいろ

いろと頂いた意見を活かして、あと今年度内に作るのなら半年ちょっとしかないという中で非常に大変だと思いますけれども、ひとつよろしくお願ひしたいと思っております。

日本版 持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の概要

1. 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）とは

グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTS-D）が開発した国際基準である観光指標を基に策定された持続可能な観光を推進するためのガイドライン。

※2023年に政府が作成した『観光立国推進基本計画』では、「持続可能な観光地域づくりに取り組む地域」数を2025年までに100地域、そのうち50地域を「国際認証・表彰地域」とするという目標値が掲げられている。

2. 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の役割

(1) 自己分析ツール（観光政策の決定、観光計画の策定に資するガイドラインとして活用）

持続可能な観光を推進するための取組事項をまとめた百科事典的なもの

(2) コミュニケーションツール（地域が一体となって持続可能な観光地域づくりに取り組む契機に）

各項目について現状把握を行う過程や分析した結果の共有が関係者との意見交換に役立つ。

(3) プロモーションツール（観光地域としてのブランド化、国際競争力の向上）

ガイドラインに基づきサステナブル・ツーリズムに取り組むことで、質の高い旅行者の獲得につながる。

3. 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に取り組む理由

(1) インバウンドの観光客に旅行先として選択可能性が高まる

(2) 世界基準に即した持続可能な観光地となれる

(3) 国際的な認証が得られる

(4) オーバーツーリズムに限らず自然・文化財保護等の課題対応も可能になる

(5) SDGsの流れにも対応した観光地と認識される

4. 指標導入のステップ

(1) 実施主体で意識を高める ⇒ (2) 観光地としてのプロフィール作成 ⇒ (3) 関係者間におけるワーキンググループの形成 ⇒ (4) 役割と責任の確立 ⇒ (5) ガイドラインに基づくデータの収集・記録、取組の実施
(6) 結果の分析 ⇒ (7) 継続的な開発・改善

5. 取組みの考え方

- ・自治体であれば通常の業務で行っている項目も多く、まったく新しい取組をゼロから行うものばかりではない。
- ・2～3年で全ての項目を達成可能とは想定していない。全ての項目を達成しているのは世界に5地域のみ。
- ・「持続可能な観光地 100選」影響力のある表彰だが、難易度としては入門編の位置づけ。「グリーン・ディステーションズ」が評価する84項目中、重要項目30から更に絞られた15項目について、60%を満たすと1次審査を通過し、グッドプラクティスストーリー（事例）を提出して受理されれば、トップ100として選出される。

6. 日本における世界の持続可能な観光地トップ100選定地域

○2021年認定 *釜石市は2018年から4年連続

:奄美大島、阿蘇市、釜石市、京都市、長良川流域、七尾市と中能登町、那須塩原市、ニセコ町、佐渡市、小豆島町、豊岡市、与論

○2022年認定

:釜石市、阿蘇市、下呂温泉、箱根町、東松島市、南知多町、那須塩原市、小国町、大洲市、小豆島町

○2023年認定

:箱根町、釜石市、丸亀市、宮津市、三好市、大洲市、小布施町、小国町、弟子屈町、与論

日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の取組項目

A 持続可能な マネジメント	1	A1	デスティネーション・マネジメント(観光地経営)戦略と実行計画	持続可能な観光の基本理念に基づき、環境、経済、社会、文化等に関する内容を含む、「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」に取り組むこと明記した観光計画等があること
	2	A2	デスティネーション・マネジメント(観光地経営)の責任	持続可能な観光を推進する責任を担う管理組織があること
	3	A3	モニタリングと結果の公表	観光に起因する環境、経済、社会、文化、人権に関する課題について定期的に調査し、一般公表していること
	4	A4	観光による負荷軽減のための財源	観光による負荷(オーバーツーリズム関連の課題等)軽減のための財源が確保されていること
	5	A5	事業者における持続可能な観光への理解促進	事業者がGSTC公認のトレーニング・プログラムを受講していること
	6	A6	住民参加と意見聴取	デスティネーションマネジメント(観光地経営)について行政・民間事業者・地域住民の三者で構成される体制があること
	7	A7	住民意見の調査	観光地経営に関する住民の期待、不安、満足度などのデータは、定期的に調査されていること
	8	A8	観光教育	地域コミュニティ、学校、高等教育機関において、観光の可能性や課題に関する教育プログラムがあること
	9	A9	旅行者意見の調査	旅行者満足度について、アンケートなどを通じて調査を実施していること
	10	A10	プロモーションと情報	市場調査及びデータに基づく観光地域が求めるターゲット層の誘致促進策は、地域コミュニティや自然・文化的資産を尊重していること
	11	A11	旅行者の数と活動の管理	旅行実態(訪問者数、活動内容)を把握していること
	12	A12	計画に関する規制と開発管理	自然及び文化的資源の保護計画やゾーニング(区分け)に関するガイドライン、規制、方策があること
	13	A13	適切な民泊運営	民泊に関する相談窓口が設置されていること
	14	A14	気候変動への適応	観光に影響を及ぼす気候変動による負の影響を想定していること
	15	A15	危機管理	災害等の非常時における計画が策定され、インバウンドを含む観光部門も考慮に入れたものであること
	16	A16	感染症対策	旅行者、事業者、地域住民のすべてが安全に過ごすことができるよう感染症対策を講じていること
B 社会経済の サステナビリティ	17	B1	観光による経済効果の測定	観光による経済効果の測定をしていること
	18	B2	ディーセント・ワークと雇用機会	働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)と雇用機会に関する取組を行っていること
	19	B3	地域事業者の支援と公正な取引	地域事業者の支援と公正な取引の実現に取り組んでいること(観光の効果がおよぶ地元の職人、農業者等も対象とする)
	20	B4	コミュニティへの支援	事業者、旅行者、住民が、地域コミュニティに責任ある形で貢献することを奨励していること
	21	B5	搾取や差別の防止	ハラスメントから旅行者を含むすべての人を、適切に保護する取組があること
	22	B6	地権と使用権利	資産取得に関して実施規定を含む計画や政策があること
	23	B7	安全と治安	犯罪、安全性、健康被害などの監視、防止、公表についての旅行者と住民の双方に対応する体制があること
	24	B8	多様な受入環境整備	外国人旅行者を含む観光客の受入環境整備を推進していること
C 文化的 サステナビリティ	25	C1	文化遺産の保護	歴史的建築物や農漁村、都市の景観など、観光資源となる文化遺産の保全管理体制があること
	26	C2	有形文化遺産	有形文化遺産(工芸品等)の保護に関する計画や規制等があること
	27	C3	無形文化遺産	無形文化遺産の保護に関する計画や規制等があること
	28	C4	地域住民のアクセス権	地域住民の自然、文化的な場所や公共スペースへのアクセスのしやすさについて調査していること
	29	C5	知的財産	地域及び個人の知的財産権を保護する規則や取組があること
	30	C6	文化遺産における旅行者の管理	旅行者の行動を管理する体制があること
	31	C7	文化遺産における旅行者のふるまい	特に配慮が必要とされる場所における旅行者のふるまいについて、地域住民の声を反映した行動規範がリストアップされ、旅行者に向けて周知されていること
	32	C8	観光資源の解説	観光地において、解説を含む適切な情報が提供されていること
D 環境の サステナビリティ	33	D1	自然遺産	自然遺産の保護に関する計画や規制等があること
	34	D2	自然遺産における旅行者の管理	旅行者の行動を管理する体制があること
	35	D3	自然遺産における旅行者のふるまい	特に配慮が必要とされる場所における旅行者のふるまいについて、行動規範がリストアップされ、旅行者に向けて周知されていること
	36	D4	生態系の維持	生息・生育地、野生生物、生態系を保護し、外来種の侵入を防ぐための体制を整えていること
	37	D5	野生生物の保護	野生生物の保護、採取、捕獲、展示、販売を管理する基準や規則があること
	38	D6	動物福祉	認可され適切に配置された人員による正規の事業活動以外、野生種は入手、飼育、捕獲されず、全ての野生動物及び家畜の飼育と取扱いは、動物福祉に対応していること
	39	D7	省エネルギー	観光地域におけるエネルギー消費量の削減と効率性の改善及び再生可能エネルギーの使用について目標値を定めていること
	40	D8	水資源の管理	水資源の使用量の測定、監視、削減を行う、事業者向けの取組があること
	41	D9	水質	飲用、レクリエーションに利用する水の質は、(条例、基準などに沿って)継続的にモニタリングされていること
	42	D10	排水	浄化槽や廃水処理に関して、定期的にモニタリングをしていること
	43	D11	廃棄物	廃棄物処理状況をモニタリングしていること
	44	D12	温室効果ガスの排出と気候変動の緩和	事業者が、温室効果ガスの排出量をモニタリングし、排出量を削減する取組があること
	45	D13	環境負荷の小さい交通	域内における環境負荷の小さい交通機関の利用促進プログラムがあること
	46	D14	光害	光害を最小限に抑える取組及び事業者向けのガイドライン及び支援プログラムがあること
	47	D15	騒音	騒音を最小限に抑える取組並びに事業者向けのガイドライン及び支援プログラムがあること

スピードスケート国際大会等に係る外国人来訪者について

令和6年2月に開催されたスピードスケート国際大会の際、外国人来訪者への対応について、中心街の施設などにアンケートを実施したことから、その調査結果及び同年8月に国外合宿者からヒヤリングした内容について情報の共有を図るもの。

1 大会実績

(1) 大会名

- ①2023/24ISU ジュニアワールドカップ競技大会
- ②2024ISU 世界ジュニアスピードスケート選手権大会

(2) 期間

- ①令和6年2月3日（土）～4日（日）
- ②令和6年2月9日（金）～11日（日・祝）

(3) 宿泊者数（令和6年1月24日～2月12日 20日間）

延べ3,278人泊（大会参加21カ国の選手・大会関係者のみ）

2. アンケート調査結果

(1) 意見聴取先

- ①八戸ポータルミュージアム はっち
- ②八戸市美術館
- ③八戸ブックセンター
- ④YSアリーナ八戸（八戸市長根屋内スケート場）
- ⑤八戸商店街連絡協議会
- ⑥八戸ホテル協議会

(2) 主な意見（要約）

○準備していてよかったこと

- ・クレジット決済を導入していたこと。
- ・英語で案内表示をしていたこと。
- ・翻訳アプリを準備していたこと。
- ・英語版の観光案内パンフレットを準備していたこと。

○課題だと感じたこと

- ・言語の壁があり思うような接客ができなかった。
- ・外国語の看板や表示がもっと必要だと思った。
- ・料理、食品の成分や調理法が分からないと口にしない（購入しない）。
- ・キャッシュレス決済への対応が必要だと感じた。

日本のキャッシュレス決済アプリは海外のスマートフォンにインストールできないため、自動販売機が利用できない。

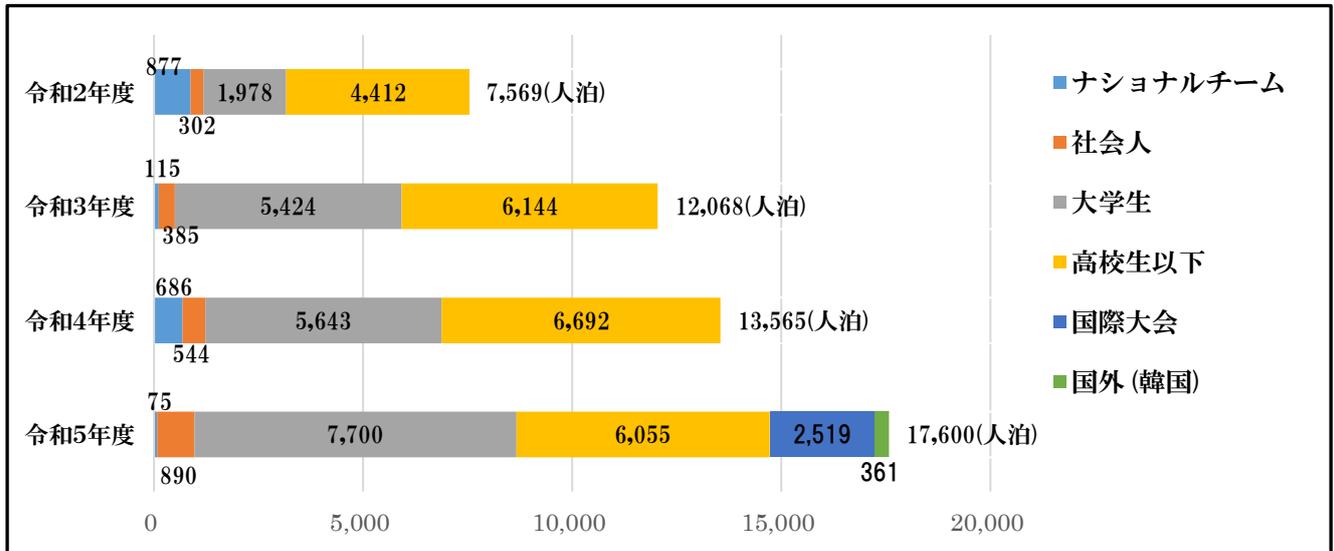
クレジットカードは使える。（タッチ決済は非対応の場合もある）

八戸には両替所がないため、海外通貨を円に交換できない。

- ・クレジットカードが使える飲食店情報が欲しいと言われた。

3. スピードスケート合宿者の動向

(1) 過去の合宿者実績



(2) 令和6年度

9,891人泊〔7月27日(土)～9月30日(日)(見込み)〕

(3) 国外合宿者からの要望

- ・クレジットカードが使用できる店舗一覧が欲しい。
- ・クレジットカードが利用できなくて残念な思いをした。
(行きたい店はキャッシュレス対応していなかった。)

4. 令和6年度の大規模スケート大会

①2025ISU 四大陸スピードスケート選手権大会

令和6年11月15日(金)～17日(日)

参加選手 80人程度 (8～10か国)

※約1,200人泊(参加選手・大会関係者 11月10日～18日 9日間)

②第92回全日本スピードスケート選手権大会

令和6年12月13日(金)～15日(日)

参加選手 130人程度

※約1,000人泊(参加選手・大会関係者 12月10日～16日 7日間)

水素導入ビジョンに関する記事

水素導入ビジョンを構築

八戸港、供給拠点形成目指す

市が推進チーム設置



水素などの導入推進に向け、八戸市が庁内に設置したプロジェクトチーム11日

次世代エネルギーとして注目される水素・アンモニアの八戸港への受け入れと供給拠点の形成を目指し、八戸市は導入の方向性を示すビジョンを新たに構築する。1日、庁内に水素等導入推進プロジェクトチーム（PT）を設置し、取り組みが本格的に始動した。来年度以降のビジョン構築に向け、先行して市内外の企業約60社のニーズを探るヒアリングを年内に実施する

ほか、先進事例の視察などを通じ機運醸成を図りたい考えた。PTの業務内容は、▽市内外企業へのヒアリング▽国、県などの連絡調整▽国の制度に関する勉強会を行う。

PTは総合政策部政策推進課内に設置し、職員5人で構成。安原清友・同部長兼同課長がチームマネージャーを務める。市民環境部環境政策課と商工労働まちづくり部産業労政課の職員2人が兼務する。

12月には八戸地域高度技術振興センター（理事長・熊谷雄一市長）が主催する先進地視察に参加。北海道苫小牧市の脱炭素の取り組みを学ぶ。

PTは総合政策部政策推進課内に設置し、職員5人で構成。安原清友・同部長兼同課長がチームマネージャーを務める。市民環境部環境政策課と商工労働まちづくり部産業労政課の職員2人が兼務する。

1日、市長室で兼務する職員2人に辞令を交付した熊谷市長は「市の持続的な発展、素晴らしい未来へつながる第一歩となる取り組みになるよう大いに期待している。一緒に頑張ろう」と激励した。

（工藤洋平）

脱炭素取り組み加速 八戸市がチーム設置

脱炭素エネルギーとして期待される水素やアンモニアの八戸港への受け入れ、供給の可能性を探るため、八戸市は1日、庁内に「水素等導入推進プロジェクトチーム（PT）」を設置した。市内企業のニーズを把握し、先行事例の情報収集や勉強会を企画。国や県と

熊谷市長から辞令交付を受けるチームメンバー11日、八戸市庁

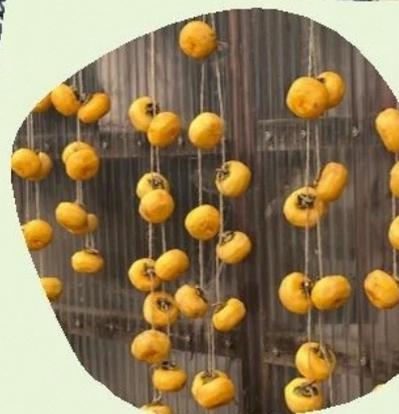


の連絡調整を図り、導入への取り組みを加速させる。PTは市政策推進課内に設け、同課の安原清友課長をチームマネージャーに、環境政策課、産業労政課の職員を含めた5人でスタート

とした。同日、熊谷雄一市長が職員に辞令交付し「市の持続的な発展、素晴らしい未来につながる第一歩になるよう大いに期待している」と激励した。

PTは年内に市内約60社へのヒアリングを実施。同市臨海部に大規模工場を構える企業などによる「八戸地域新ゼロエミッション連絡協議会」とも連携し、12月中旬、導入の先進地域・北海道苫小牧市を視察する。

2050年の脱炭素化実現に向けてクリーンエネルギーへの転換に期待できるとして、熊谷市長は9月の市議会で水素・アンモニアの活用に積極的な姿勢を示していた。（下館悠々）



ウォークイベント&シンポジウム 八戸十和田トレイル(仮称)

～地域でつなぎ、そだてる道～ みちのく潮風トレイルの成功事例からまなぶ

日本最大級のロングトレイル「みちのく潮風トレイル」に結ばれる新たな道「八戸十和田トレイル(仮称)」。
2025年春頃の試験開通を目指し、八戸市から南部町、五戸町を通り、十和田市の十和田神社まで
約120kmの地域を長く歩く旅の道となっています。
このトレイルを地域でつなぎ、そだてていくために、ウォークイベント及びシンポジウムを企画しました。
地域の皆様、近隣または遠方にお住いのハイカーの皆様も、ぜひお越しください。

ウォークイベント&シンポジウム 全体スケジュール

(1)ウォークイベント ※定員に達したため受付終了

日 程 2024年11月23日(土)
時 間 集合8:30 開始9:00～終了16:20
集合場所 奥入瀬溪流温泉スキー場前駐車場
(青森県十和田市法量焼山64-122)
ル ー ト 十和田エリア 約15km
(奥入瀬溪流温泉～道の駅奥入瀬)
ゲ ス ト 田中陽希氏(プロアドベンチャーレーサー、
日本ロングトレイル協会アドバイザー)

(2)シンポジウム

日 程 2024年11月24日(日)
時 間 開場13:30 開会14:00～閉会16:30
会 場 八戸総合卸センターコネクト
ゲ ス ト 田中陽希氏 「歩く旅の楽しさ・地域の魅力」
(プロアドベンチャーレーサー、日本ロングトレイル協会アドバイザー)
スピーカー 長谷川晋氏(トレイルブレイズハイキング研究所)、
相澤久美氏(みちのくトレイルクラブ)ほか

八戸十和田トレイル(仮称)コースイメージ:約120km



※ウォークイベントで歩くコースとは異なります

イベント申し込み

申し込み締め切り:

11/10(日)

QRコードを読み取り、フォームへご入力ください。

